

あとがきに代えて「カオス（混沌）」

東日本大震災が起きた二〇一一年三月一日という日のことは、生涯忘れることの出来ない日になりました。その一四時四六分一八秒という時間を境に、何もかもが変わってしまった。

こう言うと、被災者の方々の気持の何がわかるのか、という御叱責の言葉をいただくことになるのかも知れませんが、私のような者でも、これは尋常なことではない、という震えるほどの驚愕を覚えました。言葉を失い、自分を失いました。

悪夢でした。救出されなかった方々の無念、いまだに発見されない方々の無念、抱えきれないほどの被害を負われた方々の怒り、救出はされても失ったものへの尽きない愛着と悲しみ。解決の糸口さえ定かではない原発事故等々に対し私は無力のままです。

しかし、私たちがこうやって無力のままにあることが、被災者の方々にさらなる追い打ちをかけていることになるのかも知れません。と言いながら、私の雑駁な詩がいかほどの意味を持つものでもないでしょう。さらなる御叱責をいただくことになるのかも知れません。

それでも私は、もろもろの雑感をも含めた私自身の詩集「カオス（混沌）」を公にすることにいたしました。

私の稚拙な表現がどこに辿り着くことになるのか、誠に覚束ない限りですが、なにがしかの悪くはない念派を發してくれんことをただ祈るばかりです。

二〇一一年一月一日 有森 信二